Evening Sports

静岡の高校サッカー

# 戦後の球跡 47

## 静岡工 ①

国体のサッカー少年の部は、1969年(昭和44年)度まで単独校同士が争った。県勢は48年度第3回大会の浜松一（現・浜松北）を皮切りに、浜松西、藤枝東、清水東と続き、65年度に5校目の代表校が誕生した。

五つ目の代表校は「静岡工」だった。2008年（平成20年）4月、清水工との再編整備で「科学技術高校」が誕生した。これにより、静岡工サッカー部の歴史に幕が下りたが、刻んできた足跡が消えることはない。

創部は終戦の翌年の46年度、旧制静岡工業学校時代のことだった。48年度卒の加藤久二（焼津市在住）の声掛けが、サッカー部創設へ導いた。OB会がまとめた記念誌「静岡工高サッカー部60年の足跡」に、球技班としてバレーボール部と併せ発足した―とある。

翌47年度から活動が本格化、新制「静岡工業高校」として新たなスタートを切った48年度には、対外試合でも互角に渡り合うようになる。指導に当たったのは小野田正一、柳瀬晴海、渥美文平、寺井安正の各教諭（いずれも故人）。体育担当ではなかったが、そろってボールを蹴った経験を持っていた。

【1951年度卒業生】

| | | |
|---|---|---|
| GK | 植野 | 隆次 |
| GK | 下野 | 博司 |
| HB | 堀仲 | 幸実 |
| HB | 鈴木 | 八平 |
| HB | 青島 | 重郎 |
| HB | 西沢 | 正智 |
| FW | 望月 | 健義 |
| FW | 佐野 | 朝夫 |
| FW | 松浦 | 鉄吾 |
| FW | 福井 | 昭夫 |
| FW | 加藤 | 男 |

新生サッカー部は創部6年目、51年度の県スポーツ祭で初めて県を制した。決勝の相手は強豪としての地位を固めつつあった藤枝東。初の県制覇が懸かり、FBを務めた下野博司（静岡市葵区在住）は「張り詰めた気持ちで臨んだ」ことを覚えている。試合も緊迫、1―0で競り勝った。

次いで臨んだ近県大会。東海4県と山梨、長野の25校が参加した戦いを勝ち抜き、決勝で前年度全国選手権代表の静岡城内（現・静岡）を2―0と圧倒した。

下野によると、右サイドでボールを持つと、迷わず前方の西沢重義（静岡市葵区在住）にパス。受けた西沢が確実に中央に入れ、エースで主将の福井昭（東京都国立市在住）が決めるというサイド攻撃が確立されていた―という。

国体県予選、さらに全国選手権県予選も決勝に進出した。相手はともに藤枝東で、国体予選は0―1で敗れ、選手権予選は同スコアで借りを返した。ただ、選手権は県を制したが、中部ブロック大会決勝で韮崎（山梨）に1―4で屈した。

国体、選手権ともに全国まであと一歩と迫りながら、最後に涙をのんだ。だが、県内の主要大会全てで決勝に進出し、存在感を存分に示した。それが51年度であった。（敬称略）

（スポーツライター・加藤訓義）

1951年度の県スポーツ祭を制し、初めて県の頂点に。全員の笑顔が喜びを物語る

# 創部6年目 初の県制覇